

文教厚生委員会会議録（要点筆記）

令和6年12月16日（月）
午後2時50分開会
場所：委員会室

○中村和也委員長

会議を再開します。協議題1、閉会中の調査事項についてを議題とします。先日の県外視察の報告書について皆様からご提出をいただきましたので、本日は、その内容について、1か所ずつではなく、全体を通しての補足説明を簡潔にご報告いただき、内容を共有したいと思います。

○有留麻由委員

視察先には、駅近や中心市街地にある施設もある中で、半田のクラシティも今後の使い方次第では、中高生の居場所にもなりうるとイメージできました。どの施設も子どもたちが主体であり、子どもの意見がしっかり取り入れられていると思いました。渋谷区の子育てネウボラはすこし趣旨が違いましたが、いずれの施設も地域の環境に合わせた居場所になっており、半田市でも地域の環境や、子どもたちの意見を考慮した居場所を考える必要があると思いました。

○芳金秀展委員

ゆう杉並は、施設としてはかなり特殊でしたが、子どもたちの声を聞くところからやはり始まるのかなという感想を持ちましたので、ぜひ取り入れていきたいということと、NPO 法人 AIKURU は、行政から協力が得られていないことを聞く中で、市内視察でも回りましたが、半田市市内にも意識の高い団体が様々ある中で、支援する人を支援する仕組みと、そういった団体としっかりと連携を取っていくことが半田市にとって必要なことだと感じました。

○鈴木英華委員

CHUKO らんどチノチノとゆう杉並が特に参考になりました。提言にあたっては、子どもたちの主体性に任せて、ルールや運用を使う子どもたちに決めさせることも大切ですし、子どもたちに意見を聞きながら居場所を作っていくことが大切であると感じました。

○鈴木幸彦委員

子どもたちが主体というのが基本だとは思いましたが、行政がそれを認められるかが課題だと思います。

例えば児童センターでも、お昼は利用禁止、飲食禁止など必ずルールができてしまいますので、認められるのが懸念されます。視察後高校生が駅前にたまっており、声をかけたところ、行くところがないという生の声を聞いたので、必要性を強く感じました。

○竹内功治委員

茅野市や杉並区の施設をみて、やるべきことの方向性のイメージが湧きました。子どもたち主体の運営をしていくことで真の居場所になるということを感じました。また、公的な空きスペースをうまく活用できれば、居場所になるのではないかと感じました。

○麻生七海副委員長

様々な形の居場所を見ましたが、地域の特色を生かした居場所づくりを半田でもできるとよいと思いました。

○間瀬恒幸子ども未来部長

子どもが主体となった居場所づくりが大切だと思いました。持続性にもつながると思います。一方で、行政がこういう場を作っている場所はあまりなく、市民からの声を受けて作っているところが多いと感じました。茅野市と杉並区の施設は非常に良い施設でしたが、費用も掛かっているということで、成果が分かるようにしていけないと、維持していくのが難しいと感じました。半田市だとクラシティがイメージしやすいと思いますが、必要性を整理して進めていく必要があると思いました。

○中村和也委員長

行政が与えるという形式だと使ってもらえなくなるので、子ども主体、子ども中心で居場所を考えていく必要があると思いました。多くの施設が、既存の施設の空きスペースを活用したものであったため、半田市でも、空きスペースをうまく活用できれば良いと思いました。さらには、子ども主体ということですので、居場所という意味では、その場所に、「居たい、行きたい、やってみたい。」居場所を「増やす。つなぐ。振り返る。磨く。」こういったキーワードが必要ではないかと改めて感じたところです。

○中村和也委員長

ありがとうございました。皆さんの意見を聞いて、新たにご意見等ありましたらお願いします。

【「なし」との声あり。】

○中村和也委員長

本日いただいた意見は、委員会報告作成の際に反映させていただきます。よろしくお願いします。

続きまして、協議題2「その他」についてを行います。次回以降の委員会の日程を調整します。しばらく休憩します。

休憩 午後3時08分

再開 午後3時13分

○中村和也委員長

会議を再開します。休憩中に調整した結果、1月20日(月)本会議終了後、2月27日(木)議案審査終了後に行い、まとまらなければ再度日程調整を行わせていただきます。その他、何かご連絡のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【「なし」との声あり。】

○中村和也委員長

ないようですので、これで文教厚生委員会を終わります。

閉会 午後3時14分